

## 代替塩の利用で脳卒中や心臓血管イベントの発生率、死亡が減少

塩化ナトリウムを減らし、塩化カリウムを加えた代替塩は血圧を低下させることが示されているが、心臓血管に対する有効性や安全性については不明である。本研究では、脳卒中の既往のある者または60歳以上の高血圧症患者を対象に、代替塩の利用と脳卒中や心臓血管イベントの発生率、死亡率との関係について検討した。

中国農村部の600の地域の脳卒中の既往がある、または60歳以上の高血圧症のある20,995例を対象に非盲検クラスターランダム化比較試験を実施した。平均年齢は65.4歳、女性49.5%、脳卒中の既往がある者は72.6%、高血圧の既往がある者は88.4%であった。対象者を代替塩（質量で塩化ナトリウム75%、塩化カリウム25%）を使用する群と通常塩（塩化ナトリウム100%）を使用する群に割り付け、中央値で4.74年追跡した。結果、脳卒中の発生率は、代替塩群が通常塩群に比べて低かった（29.14 対 33.65 /1,000 人年；率比 0.86、 $P=0.006$ ）。同様に主要心臓血管イベント発生率や全死因死亡についても代替塩群で低かった（39.28 対 44.61 /1,000 人年、率比 0.88、 $P<0.001$ ）。高カリウム血症による重篤有害イベントの発現頻度は、代替塩群と通常塩群で同程度であった（3.35 対 3.30 /1,000 人年、率比 1.04、 $P=0.76$ ）。

したがって、脳卒中の既往や60歳以上で高血圧症のある患者では、通常塩ではなく代替塩を用いることで、脳卒中や心臓血管イベントの発生率、全死因死亡率が低下することが示された。

出典：New England Journal of Medicine. 2021 Sep 16; 385(12): 1067-1077.